

河川に係る長期的なモニタリング計画の検討について（案）

○ 長期的なモニタリングの目的

知床世界自然遺産地域管理計画に定められた管理の方策のなかで、遺産地域を科学的知見に基づき順応的に管理していくため、長期的なモニタリングを実施することとなっている。

本計画は、順応的な管理を「効果的かつ効率的」に実施するために必要となるモニタリング項目とその内容を定めることを目的に策定するものである。

（平成 23 年度第 1 回科学委員会より）

1 河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所及び産卵床数モニタリング （評価項目 II、IV 及び VII に対応）

（1） 評価指標

遡上数、産卵床数、河川工作物の遡上及び産卵への影響

（2） 評価基準

- ・各河川にサケ類が遡上し、持続的に再生産していること
- ・河川工作物による遡上障害が実行可能な範囲で回避されていること

（3） 実施対象河川

① 選定にあたって考慮すべき点

ア 自然環境

- ・サケマスの遡上状況、河川環境

イ 人間による攪乱の程度

- ・河川工作物の状況（あるなし、改良の有無）
- ・河川域での捕獲や放流事業の有無

ウ 調査の容易さ

- ・調査の際のアクセス
- ・ヒグマの出没

エ 過去の遡上データ蓄積、特に継続的調査の有無

オ 対象河川の配置

- ・遺産地域の核心部（A 地区）と周辺部（B 地区）
- ・斜里側と羅臼側の配分

② 調査対象河川（案）

- ・斜里地区・・・ルシャ川（ダム改良河川）
- ・羅臼地区・・・ルサ川（自然河川）

(4) 調査方法

① 遡上数調査

- ・調査魚類・・・カラフトマス
- ・調査期間・・・8月中旬～10月上旬
- ・調査年・・・カラフトマスの豊漁年とし、平成25年度(2013)より隔年で実施する。
- ・調査方法・・・河口付近に定点を一箇所設け、毎週2回、8時から16時まで2時間毎に20分間、遡上数及び降下数をカウントする。

② 産卵床数調査

- ・調査魚類・・・カラフトマス
- ・調査期間・・・9月(特に後半)
- ・調査年・・・カラフトマス豊漁年とし、平成25年度(2013)より隔年で実施する。
- ・調査範囲
 - ルシャ川・・・ヒグマ出没頻度が高いため、駐車車両から視認できる範囲(河口付近から第3ダムの100メートル程度上流まで)。
 - ルサ川・・・河口から遡上限界である約2,600メートル上流まで。
- ・調査方法・・・9月に週1回、産卵床を目視で全数カウントする。

(5) 実施主体と調査頻度

- ① 森林管理局と北海道が河川を分担して実施
- ② カラフトマス豊漁年にあわせて隔年で実施

調査内容	実施主体	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
遡上	森林管理局・北海道	○	○		○		○		○		○
産卵床	森林管理局・北海道		○		○		○		○		○

注：ヒグマによる調査実施への影響(ルシャ川)、過去の遡上数調査(ルサ川)との関連性及び必要経費等の検討を行うため、不漁年ではあるが平成24年度(2012)に試験的に調査を行う。

2 淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類層を特徴付けるオシヨロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む)

(評価項目 IV、VI及びVIIIに対応)

(1) 評価指標

生息数、水温

(2) 評価基準

- ・資源量が維持されていること、外来種は、根絶、生息情報の最小化。
- ・夏季の水温が長期的にみて上昇しないこと。

(3) 実施主体

北海道森林管理局が実施